

<http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa>

レコード 軽術

Apr 2002

4

Vol.29

連載

ですく◎古田秀和

「今月のアーティスト」 宗木鈴男



K E R E C O R D
I J U T S U



Recycle
とじ込み
今月の資源保護

これからの経済は「ラベル本位制」？

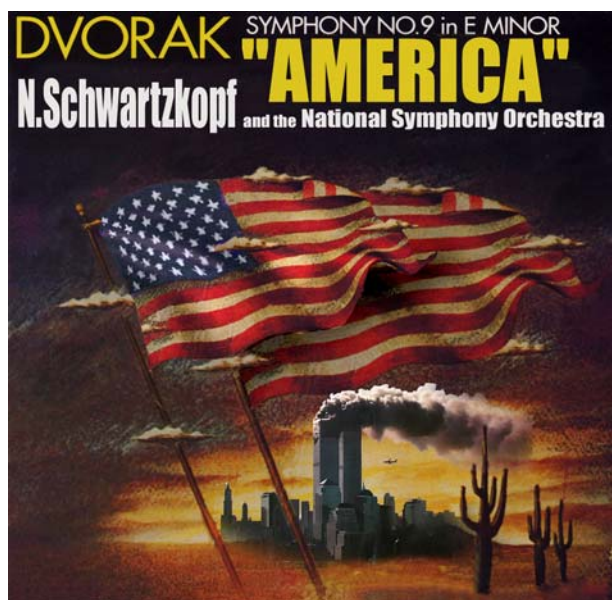
内容表示ラベルの付け外しが企業の命運を握る



臨機応変・スピーディーなラベル張り替えをします。
食品を始めCDなどあらゆる商品に対応します。大手
食品メーカーで経験を積んだ人材中心の高スキル軍団。

厚生労働省承認 2002-0401 産業経済省承認 う - ソ 800

日本リラベル株式会社



ドヴォルザークの
「アメリカ交響曲」



湾岸戦争当時名
バス歌手として
知られたN・
シュヴァルツ
コップが指揮者
でデビュー

アメリカではこれまで「新世界」と呼ば
れていたドヴォルザークの交響曲第九番
を「アメリカ」と呼ぶことにします。この
表記に従わない「ならずものレコード会
社」を黙認している国はCD売り上げの
5%をアメリカ国防総省に寄付してくだ
さい。

「新世界より」に続き、チェロ協奏曲も
「アメリカ」の呼び名がつく予定です。

Artist of the Month

何をやってもはまり役で人気の 宗木鈴男さん

インタビュー
口元泡美（本誌）

このところ国民的人気の宗木鈴男さんとインタビューする機会に恵まれた。最近のオペラは宗木さんが登場しないと物足りなくなるほど。「トスカ」のスカルピア、「バラの騎士」のオックスなど、当たり役に恵まれた幸運児といえよう。

■先日はヴェルディの歌劇「オテロ」を拝見しましたが、宗木さんのイアーゴは、主役のオテロがかすむほどの出来映え、感動しました。



宗木 「オテロ」は私が一番好きなオペラで、準備も重ねていました。オテロとデスデモーナ役も絶好のキャスト。うまくいきすぎて、ステージでニヤニヤしてしまいました。あなた見えました？

■ いえ、それは気がつきませんでした。

念のため、「オテロ」について説明しておく。政権基盤の弱いオテロを陥れようと策略家のイアーゴはオテロの妻デスデモーナが不貞を行ってような状況をあの手この手で作りだす。疑心暗鬼になったオテロは次第に錯乱していき、デスデモーナを絞め殺す。殺人を犯したオテロの支持率は急降下、イアーゴは目的を達成する。シェークスピア原作のストーリー。

ところで、なさるのは悪役が多いですね、まるで「悪役の総合商社」。

宗木 総合商社とは何ですか、これ雑誌に書かれるでしょう、〇元先生、そんな呼び方は

ないですよ。

■ 失礼。では、デパート位ですか。

宗木 あなた、オペラは人間ドラマ、悪役がいてこそ面白いのですぞ、音楽畑の記者なら、それ位の認識がないと。

■ でも、なぜ悪役ばかりやるようになったんですか。

宗木 私は声がかいんです。普通にしゃべっても脅されたように感じる人もいます。ときには反省しますが。それにこの顔つきはあまり深刻な役には向かない。悪役でも巨悪ではなくて、道化と紙一重、面白いんですよ、これが。「魔笛」のモノスタトスなんぞもやってみたい。

■ これからも「悪の枢軸路線」で行くのですか？

宗木 「枢軸」と何ですか、それぞれの役に何の関連もないでしょう、取り消しなさい。

■すみません、取り消します。

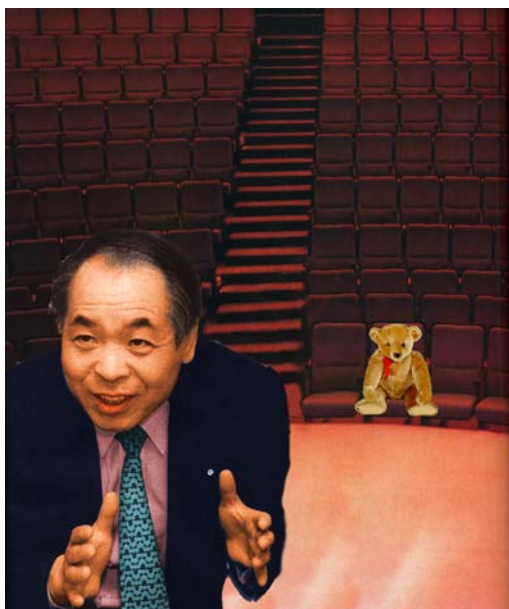
とはいうものの、枢軸なることばは元々は宗木さんがいいだったのである。押し問答になって「テープはあるか」といわれたら困るので、謝っておくことにする。

■宗木さんの夢は何ですか？

宗木 北海道にオペラハウスを作ることですね。正面に「宗木ホール」と書いてあつたらいいなあ(笑)。故郷はいいものですよ、あなた。地元のためなら何でもしていきます。



故郷にオペラハウスを作って帰る歌手、大きな夢に頼もしさを感じた。たたき上げの人が持つたくましさか。けれど、過疎地帯にクマしか入場者がないオペラハウスができたらどうしよう、などとも考えた。





今月のテーマ◎ マーラーと自己矛盾

満開になったばかりの桜の花の上に冷たい雨が注いでいる。初夏を思わせる二三日前とはうって変わったよう。花の開花や木々の芽吹きなどが春の描写として美しく描かれることが多いが、変わりやすい天候もまた春なのだ。

順調にふくらみ続けていたつぼみがいまいちもよらない寒さの戻りで縮む。晴れわたる空、優しい日差しに似つかわしくない大風が吹き、ちぎれて舞

う花びら。春はまだら模様を描きながら進んでいく。

自然の営みも、その自然の一部でもある私たちの人生も、本質的にはまだら模様なのだろう。

どんなに才能に恵まれた芸術家でも、すぐに認められるわけではないし、生活のこと、健康のことなど悲運はいくらでもある。創作に結びつく精神の高揚がいつもあるとは限らない。自己の能力の限界を感じ、それと戦いながら——その苦悩が作品に現れるか否かは別として——骨身を削るような努力をして作品を残していった音楽家たちがいる。

その中でもマーラーは、すでにいろいろな人に議論されてきたし、ここで深入りするのはどうかと思うので簡単にするが、偉大な作曲家の中でもとりわけ自身の苦悩を作品に深く反映した一人だと思う。

マーラーの音楽の「まだら模様」はマーラー自身の人生の「まだら模様」であり、その「まだら模様」を描く苦しみがまた「まだら模様」の一部として描かれる。自己との戦いが自己との戦いに再び組み込まれ、死ぬまで続いていくのだ。

自らの限界を知ることとは一つの高みに到達することでもある。物理学は、われわれは宇宙を「まっすぐには」進めないことを教えてくれた。論理学は、どんなに精密に論理の体系を構築しようと「私のいうことは嘘である」というような真偽を定められない命題が含まれてしまうことを教えてくれた。

そうか、マーラーは「自身を含む命題」と取り組んで苦しんでいたのではないか？



今回取り上げたCDに収められている「交響曲第九番」は死の予感と戦いつつ書き残された作品である。完成は一九一〇年、世紀が変わって間も

ない頃である。その当時の世界情勢を無理に今と結びつけるつもりは毛頭ないけれど、「自己との戦い」は人類共通の課題として広がってきたように感じられないだろうか。

環境の問題から「成長の限界」が唱えられてからもう三〇年以上も経つ。もう私たちは文明をこれ以上拡大させることはできないと知りながら、何一つ根本的な変革ができない。もどかしい。政治の限界なのか社会体制の限界か。自己との戦いが始まっている。

このCDは世界環境会議が閉会されたあと同じ会場で録音された。オーケストラはアメリカを除く各国からきた演奏家の集まり。マーラー最後の交響曲となったこの曲には「まだら模様の終末」がことさら悲しく描かれている。

このCDのアメリカでの発売はないというが、アメリカの音楽愛好家にはぜひ聴いていただきたい。異常に早くやってきたこの春の気候のまだら模様の原因もきっと環境破壊に無関係ではないのだから。

新 譜 月 評

april 2002

4.1

4 月新譜月評

交響曲 宇野咆吼

交響曲の成り立ち
大西健気（指揮と語り）

管弦楽曲 藤田由々

声楽曲 北道又帰

ヴィラ＝ロボス
バレエ音楽《アマゾナス》ほか
ムネーヲ鈴木指揮 ODA交響楽団

録音評 神崎自公

辻棲泡美／オペラアリア集
辻棲泡美（s）

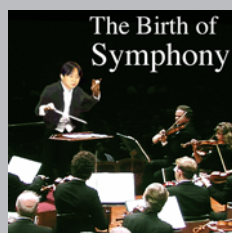
（評外）
別れの曲
サチィ野村（p）

新譜月評

交響曲

宇野咆吼

■交響曲の成り立ち／ハイドン…交響曲《受難》《薄馬鹿》《奇跡》など 大西健気指揮
と語り アンサンブル・フォーリン



推薦

交響曲誕生の歴史的流れをハイドンの交響曲を中心に解説つきで聴くCDで、教材として使われることも念頭に制作された。楽器を演奏しているのはアマチュア演奏家で、外務省のOBと退職者

などから構成されているボランティア団体である。その裏には縦割り行政のため疎遠になりがちな文部科学省と外務省との交流のねらいもあった。

ここまですり着くまでにはいろいろあったらしい。外務省の役人は要するに「良いところの生まれ」で、幼少の頃から楽器を習っていた人が多く、オーケストラの編成は難なくできたが、そのあとが大変だった。

まず、練習場の手配や賃借料の精算を彼

た一人で、もちろん即退団となった。このようにしてオーケストラらしい体制を整えたのは川口・遠山両トレーナ。口うるさい教育ママと嫌われもしたが、当初の目を覆うような状況はウソのように改善された。それを見てなんとかなりそうだと判

断した大西氏が新たなリーダーとなり、このCDの企画が生まれた。

ハイドンの交響曲は精妙なアンサンブルが要求されることから「オーケストラの葉」といわれる。このオーケストラのメンバーにとつてはもう一つ社会人としての葉にもなっただろう。

CD発売後は音楽教育交流のためのNGO団体として発展途上国に赴く予定だ。

95

新譜月評

管弦楽曲

藤田由々

■ヴィラロボス：バレエ音楽《アマゾナス》／序曲《熱帯雨林の夜明け》／狂暴な舞曲／野生の詩
ムネーヲ鈴木指揮 ODA交響楽団 加藤工事・辻本濁美（perc）



日系ブラジル人指揮者・ムネーヲ鈴木と、発展途上国の芸術振興のために日本で生まれたオーケストラ・ODA交響楽団の組み合わせによる、ブラジル音楽の新譜が出た。厳しいリハーサルで知られる鈴木。怒鳴る・吠えるは日常茶飯事。リハーサル中に

弾く個所を間違えてしまった楽員に対して、指揮棒や鉛筆をへし折って投げつける、あるいはスコアで殴る、ひいては楽員のネクタイを締め上げて恫喝するなど、共演するオーケストラにとっては「鬼門」とも言える指揮者である。その割には話題ばかりで目立った実績を上げていない鈴木。このディスクこそは、と思って試聴したのだが、またしても期待を裏切られた。

確かに迫力のある演奏ではある。曲のそこそこで、南米の土俗パワーが炸裂する。特

にディアギレフの委嘱で作曲した《南米版・春の祭典》とも言うべき《アマゾナス》や、《狂暴な舞曲》に於けるダイナミクスには目を見張るものがある。文字通り狂暴な演奏だ。聴き手を恫喝しようとしているんじゃない。

しかし、ただそれだけの演奏である。よく聴き込むと、説得力というものがまるでないのだ。鈴木は自己満足だけで終わってしまったている。単に大声で怒鳴れば、人が意見を納得して聞き入れるのではないように、演奏のパワーだけで聴衆を説得するこ

とはできない。この演奏はそれを如実に物語っている。聴衆ばかりではない。オケそのものも、本当に鈴木への解釈を受け入れているのかどうか、極めて疑問だ。

なお、これらの曲は巨大な打楽器群を必要とするため、鈴木は客演打楽器奏者二名を演奏に参加させた。しかしこれは大失敗。音こそ大きいものの加藤と辻本の打楽器は明瞭さを欠く。かえって演奏に不透明感を与える結果となってしまった。こんな演奏ばかりを聴かせる指揮者と打楽器では、聴衆の不信感を招くばかりである。

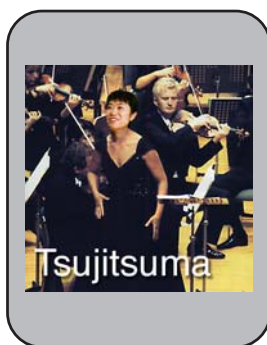
【録音評】 ブラジル・サンパウロ市に日本の経済援助で完成した新設ホールでの録音。各楽器および左右の分離は極めて不明瞭。ダイナミックレンジばかり広く、霞の掛かったようなテイク。聴衆を入れない、いわゆるスタジオ録音なのに、会場ノイズがやたらと目立ち実に聞き苦しい。

新譜月評

声楽曲

北道又帰

■辻棲泡美／オペラアリア集「モーツァルト…『魔笛』より（夜の女王のアリア） ■ドニ
ゼッティ…『ランメモールのルチャ』より（狂乱の場） ほか」 辻棲泡美（S） 土井片子
指揮 SDP管弦楽団



このディスクが発売されるかどうか原稿
を書いている時点では予断を許さない情勢
にある。すでにご存じの方も多いだろうが、
一連の事態を説明しておこう。ことの起こ
りはある週刊誌に、辻棲泡美の発売予定の

CDに彼女が実際に出せない高音域があ
り、ある操作により彼女のものと区別がつ
かないようにした声が挿入されていると報
じられたことにはじまる。

当初彼女はその記事の内容を全面否定
し、所属音楽事務所も全面的にバックアッ
プするはずだった。しかしその後の調査
で、別の音楽事務所に属する歌手が一音五
万円で請け負ったことが明らかになり、結
局辻棲側の全面謝罪と公演キャンセルの事
態に発展した。

このような営利だけをねらったCDの企画を持ちかけたのはだれか、この程度のことはほかにもあるのか、真相の解明にはまだ時間を要す。

辻棲泡美はクラシック界において貴重な個性の持ち主だったと思う。人気では宗木鈴男と競ったが音楽性は全く異なる。歯切れ良いリズム感、明るくのびのびとした声に多くのファンがあった。浪速の風情を感じると評され、関西圏で特に支持が多かった。

自分のディスクが多く売れることはだれでも願っていることだろうが、出ない声を

付け加えてまで出す必要があったか。知名度が上がるにしたがい商業主義の罠に落ち込んでしまったのではあるまいか。

音楽を聴きながらやりきれなくなるのは、慕ってきた人に裏切られる無念さである。《ルチア》の「狂乱の場」はまさにこの場面。ここでは高音域が大活躍するが、このすべてが彼女のものであってほしい。歯がゆいような悔しいような思いがこみ上げてくる。再起を願うとともに、今回の事件を業界への警鐘としたい。

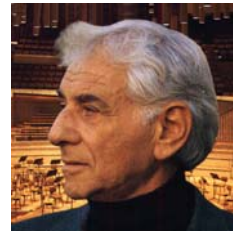
【録音評】 拡がりがありながら細部まで鮮明。ただし、歌手の位置は時折ぶれる。問題とされている高音の挿入箇所はパソコンで解析できるが、評者には一個所のみが確認できた程度。

ではない



ノーベル賞100年

カラヤンとバーンスタイン
の遺言が平和賞を変えた



今後の平和賞は必ず二人に与えられます。それぞれが仲の悪い関係にある国に住んでいることが条件。まず半分のトロフィーが与えられ、5年後さらに関係が改善されていたら残りの半分が与えられますが、もし悪化していたらトロフィーは返却しなければなりません。



20世紀を代表する両巨匠が自身のことを悩み抜いて提案した制度です。小泉首相と金大統領にも資格あり？

政治力は生まれつきではない

ムネオ・メソッドで豊かな人生を



創立記念演奏会から

私たちはソリストを育てるのが目的ではありません。
どの音楽家たちもより豊かな生活を送れるよう、官庁・
自治体などに口利きをするための団体です。

演奏実技とともに世渡り術を身につけます。
ドブ板コース・賊議員コースがあり。

才能政治研究会



最近セシウム発振器をCD製作時のクロックのベースにすることで、音質が大幅に向上したことが報告されている。セシウム発振器は物理学において時間の原器として採用されているほど精度が高いものである。原器となるほどだから、大がかりな装置であり、非常に高価なものだ。

セシウム発振器がよいとはわかっていても、とても家庭には持ち込めないとあきらめていたところ、同等の効果があげられる方法を以前から研究している(株)サウンド・スペースのことを聞き、テストに来てもらった。



(株) サウンド・スペース代表の高橋氏直々の来訪で、まずは原理的なことから伺う。セシウム発振器ほどの精度となると、ニュートン力学では精度が足らず、相対性原理を適用しなければならぬとのこと。ところがCDにはクロックの精度以前の問題として、時空のゆがみなるものが含まれていて、これを取る必要があるという。CDは宇宙の中を高速で運動している地球の上に置かれ、さらにプレーヤの中で高速に回転するゆえ、

再生するとともに中に四次元のひずみが蓄積されていくのだそうだ。これを除去すると高精度クロックを採用したと同等の音質が得られるという。これを除去すると高精度クロックを採用したと同等の音質が得られるという。

写真がその装置で、柄の部分は正しく東西に置かねばならないとのこと。地球の自転による影響が出るからだそうだ。マイケルソン・モーリーの実験だのローレンツ変換の式が何とやらと説明されたが、私には皆目わからない。高橋代表が「定説」というからには信じるのみだ。CDを囲む磁石は、「超相対性理論」を導い

た清家新一氏が製作したもので、まだ世界に三台しかないという。早速CDを一枚処理してもらったが、出てくる音に違いは感じられなかった。私がキョトンとしていると、高橋代表はハエたたきのような棒（端にコイルがついている）を私



の額に近づけ、軽くポンポンとたたいた。一瞬目眩がしたが、そのあと不思議なことに、スピーカから出る音が耳を疑うような輝きが加わっていた。これまで聞こえなかった声部も幻のようにわき上がってくる。この驚きは忘れられない。

高橋代表には、我が家の全CDを持ち帰って処理していただくことにした。今はプレーヤにかけるものは何もないが、幸福感はまだ続いている。高橋代表がいつ処理がすんだCDを持つてくるのか、それはもう、どうでもいいことのように思えてきた。

愛蔵CDはいつも最高！

ライバルCDあら探し検索ソフト「伏魔電」新登場



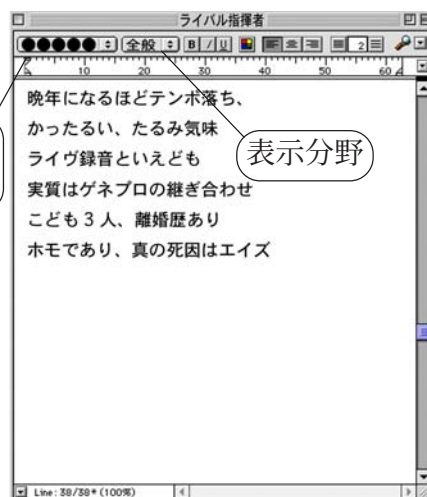
ここにCD番号を入れボタンをクリック！

ほめことばだけではCDは選べません。
自己満足に、新ジャンル開拓に今や必須。

表示例

ここに指揮者の
名前が出る

表示分野



本ソフトは外務省害務部の
賊議員関連文書検索システム
をもとにしており、その実績
は高く評価されています。

強力CDデータ消し「新・デストロイヤー」登場！

どんなヤバイ記録もこれで闇の中

当不要CD処理工場では、最近文書情報が入ったCD-Rの割合が急増しています。

持ち込まれたものは読みとることなくすぐに処理工程に回します。赤坂の料亭街で政治家の会合が盗聴され、その録音が当工場から出たという話は事実無根です。ましてや、東シナ海の海底の不審船の中にあるなどの噂は営業妨害です。

デストロイヤーを
使えば心配なし！



強力インクがCD素材を腐食。インデックスのある内側だけでOK



CD引換券

不要なCD 5枚と本券でご希望の製品と交換します

オントモグループ **オントモ燃処理**株式会社

有効期限 2002.4.1

名曲が銘酒とともに染み渡る

「レコ軽」発祥の地「グレル」

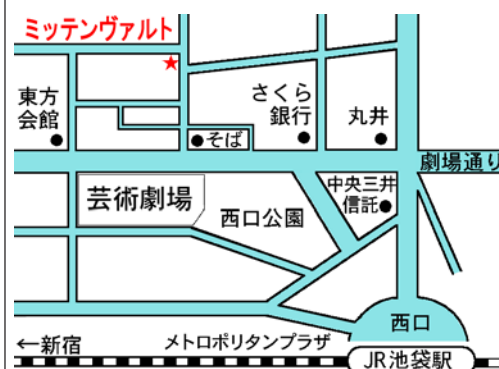


GALLERY
グレル
COFFEE &
WHISKY
〒167-0054
杉並区松庵3-37-24
(日曜休み)

今月のメニュー

エリザベス・サケイおつまみ集
から

梨の形をした3つの餃子
太った客のスケッチとからかい



<http://www.jah.ne.jp/~violin>

名器のふるさとドイツ
ミッテンヴァルトから直
輸入の丸太切り競争公開

4月1日11:00西口公園にて。浅
草支店の社員が総出演。警官
に注意されるまでやります。

CD高価買取

PM 0:00 ~ 9:00 年中無休

ミッテンヴァルト
MITTENWALD

静謐、月の光。音楽。

BAR

大鴉 《お、がらす》

バッハを聴きながらスコッチを、
モーツァルトに浸りながらワインを……
喧噪を離れて、クラシック音楽を
ゆっくりお愉しみいただけます。

大阪市住吉区帝塚山中 3-7-7 ミュースコート帝塚山 TEL06-6672-8777



編集後記

国民注視の的になった点では辻元・鈴木の両代議士ほどの人はなかなかいません。一連の報道はワイドショー的との批判もありましたが、国民の知らないところでどのようなことが行われていたかを知らしめた意義は大きいと思います。

両氏が表舞台から去ってしまうのはパロディ誌制作の側からはちょっと寂しいことです。

今回は管弦楽月評の原稿をかずみさんからいただきました。

バックナンバーのハイライト、制作時の裏話などを
<http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa> で見ることができます。

レコード軽術 '02年4月号（通巻第29号）

2002.4.1 第1刷発行

2002.9.28 PDF版発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

